

9月11日から11月1日までの間、市内の13地区で、市長が市の主要政策を説明し、地域住民の皆さんと意見を交換する「市長と語る会」を開催しました。

この懇談会は、市民の皆さんに市政運営について理解を深めてもらい、市民の皆さんからの意見や提案を市の施策や地域のまちづくりに生かすことを目的に、各自治体の主催で開催されました。各地区とも多くの市民の方が参加され、意見が寄せられました。本紙では、主要政策「はたらく」「たべる」「くらす」に加え「まなぶ」について紹介します。

■問い合わせ 地域振興課 ☎2612111（内線342）

市長と語る会 はたらく・たべる・くらすの視点から

小坂市長が主要政策「はたらく」「たべる」「くらす」について説明しました。恵那駅前前の恵那くらしビジネスサポートセンターや料理人による料理教室、恵那病院の分娩状況など、写真やグラフなどを映しながら説明しました。

他にも「まなぶ」をキーワードにした事業説明や、最近の話題としてスポーツツーリズムや連続テレビ小説「半分、青い。」の効果にも触れました。



▲写真などを映しながら説明する小坂市長

写真提供：松原建設株式会社

物知りおじさんのふるさと情報



元市史資料室職員
山内 貴美男さん
(長島町)

今月の物知りおじさん

領収書と写真から見る 恵那の明治時代

笠置町毛呂窪の偉人である山本誠之助は、東雲橋の架橋や道路整備、毛呂窪小学校の建設など、地域の開発と教育に大きく貢献した人物です。山本氏の資料整理を進めている中で、当時の暮らしが見えてきました。

食についてはサンマやタイ、するめなどの海産物、パン、肉などを購入した領収書がありました。この頃、中央線の開通があったため、それとの関係は特定できませんが、当時から物資輸送が盛んであったことがうかがえます。他にも岩村のカステラや酒石英を購入した領収書がありました。酒石を再結晶させた酒石英は製菓や染色などに使われます。何の目的で購入していたか不明ですが、わざわざ手に入れていたことに非常に興味があります。書類の中には「引続自家用料酒製造御願書」があり、山本家ではどぶろくや焼酎、みりんの酒造も手がけていたようです。驚きは明治40年代の初めには、当時高価な牛乳を飲んでいただけです。長島町中野の可知養牛舎という牧場から、一日おきに二合ずつ配達されていま



▲牛乳が配達されたことを示す配達表

した。今の貨幣価値で一銭が100円程度とすると、一本500円（配達料含む）の値段でしょうか。さらに領収書が新聞代と一緒に記載されていたことから、当時新聞店は牛乳と一緒に配達していたと思われる。

写真については古いものは明治7年で、ちょんまげに袴姿のものがありました。明治30年ころからは、友人や親戚などと個人の姿写真をお互いに送り合う習慣があったのか、家族以外の写真が数多くありました。明治から大正の書生姿や軍服姿、流行の服装姿など千枚ほどが保管されていて、当時の生活や風俗を知る上で貴重な資料となりました。

ふるさとに学び郷土愛を育む、毎月第3日曜日は「恵那市読書の日」
市中央図書館・伊藤文庫

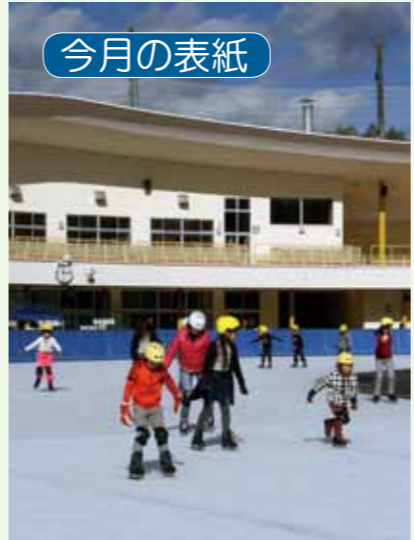
広報えな 12月号 目次

- 3 特集 市長と語る会
- 6 特集 平成30年度上半期市の財政状況
- 7 特集 第61回市美術展
- 8 注目情報
- 10 お知らせ
- 16 みんなの掲示板・おくやみ健康ガイド
- 18 子育て支援センター・相談
- 20 地域情報トピックス
- 21 図書館・文化施設情報
- 22 エーナの社会見学
ビジネスサポートセンター
- 23 健幸レシピ・男女共同参画
- 24 出生・1歳になりました
園・小中学校トピックス
- 25 輝く恵那人
- 26 ニュースと話題
- 28 主な施設の年末年始の日程

◀市ウェブサイト
あなたの知りたい情報を分かりやすく提供しています。

◀市メール配信サービス
防災や観光などの情報を電子メールで配信しています。

電子メールの登録は無料ですが、接続料や通信料は利用者負担となります。ウェブサイト閲覧は無料ですが、接続料などは同様です。



今月の表紙

クリスタルパーク恵那 スケート場で初滑り

11月23日(金)から、県クリスタルパーク恵那スケート場(武並町)の冬季営業が始まりました。この日はオープン記念として滑走料が無料となり、市内外からの約1000人の来場者でにぎわいました。このスケート場は国際規格の屋外スピードスケート場として、日本で最も西に位置するスケート場です。アイススケートシーズンは平成31年2月17日(日曜日)まで、期間中は休まず営業します。

数字で見る 恵那市

人口(11月1日現在)

総数	50,526人	(-49)
男	24,585人	(-21)
女	25,941人	(-28)
世帯	19,778世帯	(+15)
()	内は前月との比較	

人口動態(10月異動)

出生	31人	
死亡	62人	-31人
1月からの自然増減	-324人	
転入	115人	
転出	133人	-18人
1月からの社会増減	-84人	

救急車出動回数(10月)

243回	(2,088回)
()	内は1月からの累計

交通事故(10月中の概数)

人身事故	8件	(87件)
物損事故	111件	(1,174件)
負傷者	9人	(112人)
死者	0人	(0人)
()	内は1月からの累計	

火災(10月)

建物	0件	(9件)
その他	1件	(14件)
()	内は1月からの累計	

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。またインキは石油系ではなく、地球に優しい植物油を使用したもので印刷しています。

働はたらく

恵那の工業団地で一番大きな会社が増築し、新たに雇用が創出されたり、新しい会社が操業したりと、雇用の場が増えていきます。一方、課題は、働く人がいないということです。仕事はあるが働き手がいらないというのが、市や東濃地域、県全体の状況です。

現在、市では本社機能移転の取り組みを進めています。工場は、操業するために労働力の確保が課題となりますが、本社機能や研究開発機能は人材ごと都市部から一緒に移動してくるので、非常に経済的な効果があります。新しい労働力もそこで働くことができるようになるため、さらなる経済効果が見込まれます。

働き手不足を解消するために、働きやすいまちづくりに取り組んでいます。その一つが、昨年開設した恵



▲市病児保育所



▲恵那くらしビジネスサポートセンター

那くらしビジネスサポートセンターです。市への移住案内や、空き家の紹介などを行っています。さらに、ビジネス相談も行っています。新たに市内で起業したい方や、既に商売をしているがもつと分野を広げたいという方の相談を受けています。4月からは新たな取り組みとして、「シニアワークステーション」という機能を付け加えました。就業率が下がる60歳以上の方を対象に、再び社会で活躍できる機会に、出会う取り組みをしています。

子育て中の母親が少しでも働きやすいように、来年4月に、市内で最大規模のおさしま二葉こども園を開園します。この園では0歳児から預けることができます。市病児保育所も昨年5月に旧恵那病院を活用し、開設しています。利用の予約は利用当日の朝でも予約できるため、利用しやすいです。

暮くらす

昨年11月から恵那病院での出産が始まりました。市外の利用者も増えており、大変評判が良いです。安心して産んで、産んだ後もケアできる態勢が整っています。4月に中野方救急分遣所を開設しました。救急車と隊員3人を中野方振興事務所に配備しました。恵那北部地域の皆さんが安心して暮らせるための取り組みをしました。

防災関係では、既設の雨量計設置箇所に加え、新たに7カ所増設しました。情報を速く、皆さんにお知らせできるように取り組んでいきます。6月の大阪北部地震で発生したブロック塀倒壊事故を受け、ブロック塀の撤去のための補助金制度を設けました。通学路や避難路で、危険性のあるブロック塀を撤去したい個人の方は活用ください。



▲中野方町に救急分遣所が開設

瑞浪恵那道路は全線4車線化に向けて動き始めています。公共交通などの移動手段は、10月から串原地域で有償運送が始まり、岩村、山岡地域ではデマンド交通が始まりました。



▲着工が決まった瑞浪恵那道路

農ある暮らしをしたい移住定住者への支援は、農地を取得しやすくするために、取得面積の要件を引き下げました。他にも市の管理する住宅の入居要件を緩和し、市内での住みやすさを向上させました。太陽光発電設備の設置に関する条例も制定しました。

食たべる

昨年度は料理教室を8回開催し、196人の参加がありました。大変好評であったため今年も引き続き開催しています。一般向け6回、中学校4校、親子で2回。既に終了している教室もありますが、「食」に関する教室もあり、プロの料理人から習う料理教室は非常に人気があります。今後は食育という観点から小さな子どもに向けても、こうした取り組みを広げていきます。

「たべとるマルシェ」という、地元で採れた野菜を生産者から直接購入できる場所を設けています。こだわりを持って作っている野菜のことを、皆さんに知っていただきたいということで8月から定期的に開催しています。毎月一回、恵那中央図書館で開催しています。地元で作られる



▲こだわりの野菜が並ぶマルシェ



▲親子でプロから料理を学ぶ

野菜や米を作っている人、それを使って料理をしている人との交流の場を設けています。今年6月の交流会では生産者32人、料理人21人が参加。12月以降も開催します。熱心な生産者や料理人など、多くの関係者との交流が進んでいます。

8月31日には、山形県鶴岡市のイタリアンレストランシェフ、奥田政行さんを招いて講演会を開催しました。これまで実践してきた、レストランと生産者が一緒になって食材を育てる取り組みや、料理を使って地元を元気にする方法などを話しました。観客の目の前で地元食材を料理するライブクッキングも行われ、参加した方からは「非常に面白かった」との声が聞かれました。市の「食」には多くの可能性があると思います。

学まなぶ

教育に関しては、特にICT教育に取り組んでいます。平成28年度から平成30年度の3年間で、授業でタブレットを使って学べる環境を整えました。例えば、体育の授業では跳び箱を跳ぶところをビデオで撮り、自分の跳び方の悪いところを見て、直していくという使い方ができます。小学校14校で438台、中学校8校で230台。市内全ての小中学校でタブレットを使った情報教育が行われています。

今年の夏は大変暑く、学校へのエアコン設置についていろいろな意見がありました。東濃5市の全ての市で、エアコンの導入に向けて動き出しました。市内の小中学校には普通教室を含めて、全室数が184室あ



▲跳び箱を跳ぶ様子を撮影



▲改修工事中の恵那東中学校

りませんが、エアコンが入っているのは2室だけです。多治見市や瑞浪市、中津川市は設置数はゼロです。市ではエアコン設置設計費を補正予算で対応し、市内の全ての教室へのエアコンを設置していきます。

その他、武並小学校の体育館改築を平成29年度に約3億3千万円、恵那東中学校の大規模改修を平成29年度と平成30年度の2年間で約5億6千万円かけて実施しています。まがね公園の大改修も、現在行っています。今年度と来年度で約4億円かけて行います。恵那文化センターでも耐震などの工事に約2億円をかけて実施しています。全体的に改修や修繕など、学ぶ環境を整えるということが主軸になっています。